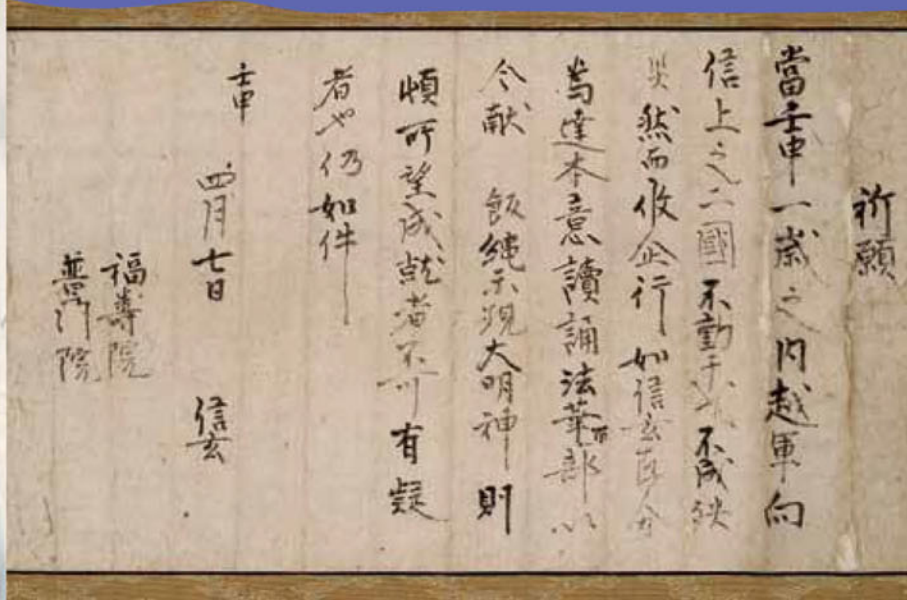


地域の記憶 市内に眠る古文書の世界



市内には、今もたくさんさんの古文書が残されています。有名な武田信玄が記したもののから、当時の庶民の残したもので、時代も形も様々です。

しかし、ちゃんとした巻物などになっていれば、まだしも、お蔵の隅でネズミにかじられてボロボロになっていた、クシャクシャに丸められていたりするものは、こんなものに価値があるわけがないと思ってしまいがちです。

たしかに、そのようなものは金銭的価値からいえば、三束三文なのかもしれせん。しかし、その古文書が語ってくれる「地域の記憶」という面からみれば、南アルプス市にとってその価値は計り知れないものがあるのです。地域に残された古文書は、ここに示したように、地域に隠された実に様々な歴史を我々に教えてくれます。

現在市内に眠る古文書は危機にひんしているといえます。長い間お蔵に眠っていたものが、新しい家に立て替えるために捨てられたり、市外に散逸したりするケースが多く見られます。

市では、大学や地域の方々の協力を得ながら、少しずつ古文書の所在調査と記録作業が続けていますが、時には「軒のお宅の古文書の調査に数年を要すこともあり、なかなか追いついていけないのが現状です。

東日本大震災の後、東北地方では、地域の古文書や文化財を救出する「文化財レスキュー」が盛んに行われてきました。もちろん人命に勝るものは何もないのですが、個性的な地域の復興には、地域固有の記憶である、このような文化財が重要な役割を果たすことに人々は気がつきはじめています。

こんなボロボロなもの、何が書いてあるのかわからないと、捨ててしまうのは一瞬ですが、数百年の歴史が、地域の記憶が、そして何よりそのお宅の記憶が、その中に封じ込められて眠っているかもしれない。年度が替わり、新しい春を迎える中、転勤や引越、家の中やお蔵の整理などで古文書が出てきた場合、こんなものにホントに価値があるの？と思わずに一度、市の教育委員会までご相談してみたい、いかがでしょうか。

武田信玄直筆と伝わる祈願文
加賀美地区の法善寺に伝わるもの。
その価値はいままでもない。



現在も市内の水田や果樹園を潤す徳島堰に関わる古文書。水に腐心した人々の苦労がわかる。



フスマの下張りに古文書が使われている例。このようなところにも大発見が隠れている。



古文書調査の様子(上/下)
地域の記憶を繋ぎとめる作業が続けられている。



地域で見つかった古文書の例
一見ボロボロだが、読み解いていくと当時の村の様子が生きたままと浮かび上がる。こちらにも上の古文書と同様の、重要な価値を持つ。

古文書調査の成果は、小中学校での授業や、皆様に地域を知ってもらうための生涯学習講座、市内の歴史や文化財を紹介したパンフレットなどに還元されていきます。



見つけた村明細帳(現在の市勢要覧のようなもの)。当時の村の人口や生業などがよくわかる。



古文書をお家で保管できない場合、止むをえず処分をご検討している場合は、ぜひ市に寄贈ください。市民共有の財産として、大切に活用させていただきます。

問い合わせ先

教育委員会 文化財課
電話(282)7269